

銅 概 況

大阪市中央区玉造 2 丁目 28 番 10 号
加藤金属興業株式会社

◎ 平成 30 年 9 月の国内電気銅建値は下記の通りです。

9 月	3 日	～	710 円/Kg
9 月	6 日	～	700 円/Kg
9 月	13 日	～	710 円/Kg
9 月	19 日	～	720 円/kg
9 月	25 日	～	750 円/kg

平成 30 年 9 月度は平均で 717.70 円/kg となり、前月比 1.70 円/kg の値上がりとなりました。

海外銅価の動き

9 月の LME 銅相場	9/1 ～ 9/28 (安値ドル 5,823.00～6,320.00 高値ドル)
9 月の NYC 銅相場	9/1 ～ 9/28 (安値セント 258.35～283.65 高値セント)

9 月度の LME 現物は、9/3 \$5,951.00 でスタート。3 日に中国の 8 月製造業購買担当者指数 (PMI) が 7 月より 0.2 ポイント低下したとの発表があったが、これは昨年 6 月以来の低水準。また、輸出受注も 5 か月連続で 50 を下回るなど、企業人員の削減も加速し、需要低迷の背景となっている。更に週末に発表された中国の 8 月の対米貿易黒字が過去最高を記録するなか、トランプ米大統領は“全ての中国輸入品に追加関税の用意がある”と述べ、一段と強硬姿勢を鮮明にした。この発表により中国工業用金属需要の鈍化を懸念する動きが浮上するも、17 日の米政府が発表した第 3 弾の対中制裁関税は予想されていたほどの厳しい内容ではなく、18 日の中国政府の報復措置も想定範囲に留まるなど、トランプ政権が一定の配慮を見せたことで、加熱する関税の報復合戦に係る悪材料がひとまず出尽くした感ありと市場では受け止められた模様。

銅需給バランス…Brook Hunt 情報 2018 年 5 月 資料より (単位/千トン)

	2017年 実績	2018年 実績	前年比	2019年 予想	前年比	2020年 予想	前年比
全世界地金生産	23,008	23,306	+1.3%	23,678	+1.6%	24,124	+1.9%
全世界地金消費	23,059	23,522	+2.0%	23,997	+2.0%	23,447	+1.9%
全世界需給バランス	-51	-216		-319		-323	

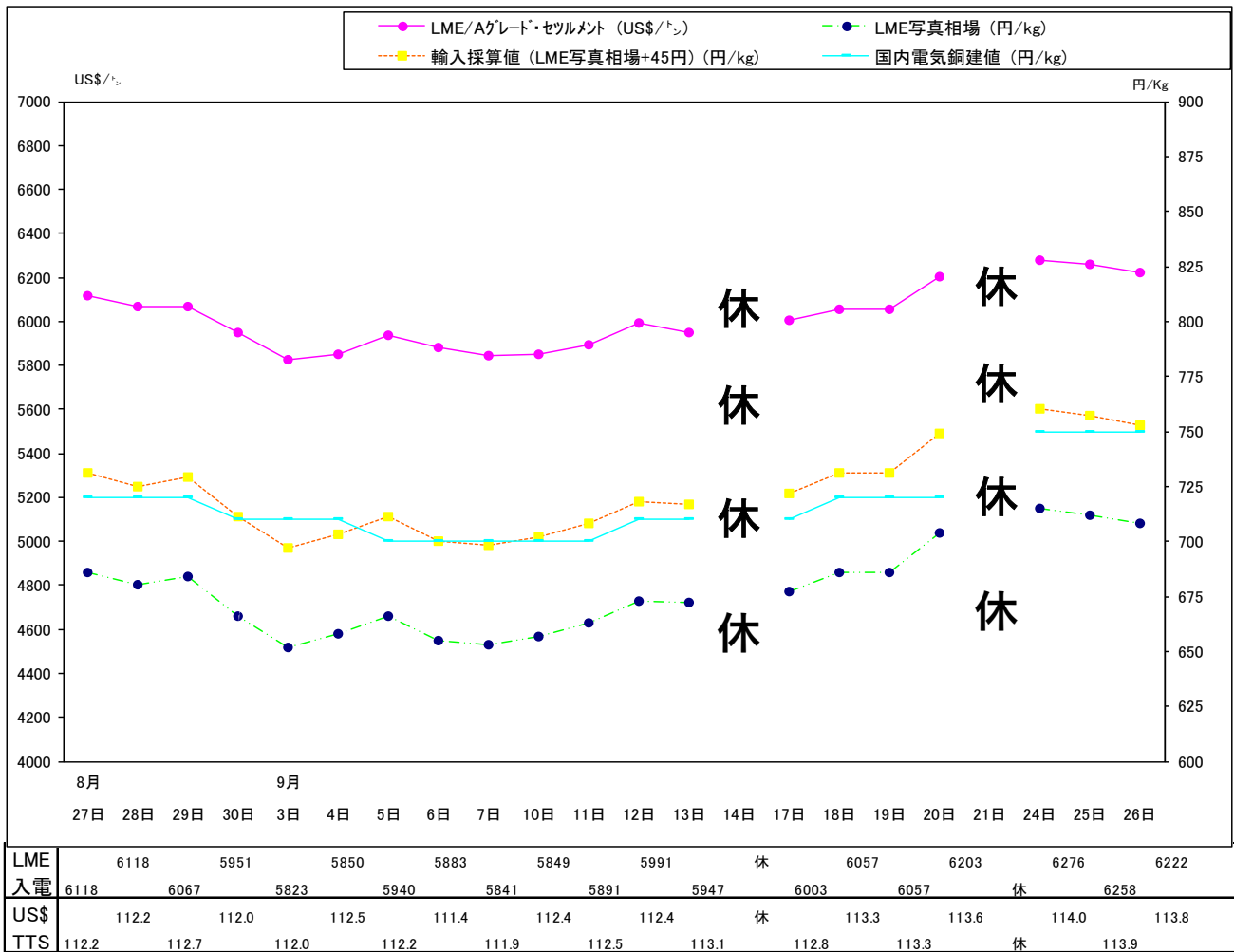
先行き短期見通

国内銅価

9 月度の国内建値は 3 日 710 円/kg でスタート。6 日 700 円に下がるも、13 日 710 円、19 日 720 円とやや戻す格好となり、月末 25 日には LME が \$6,000 を超える動きに円安も重なり、30 円アップの 750 円をつける形となった。

9/27 付 LME \$6,222.00、27 日付 為替 (TTS) 1USD=113.89 円で日本円換算計算値 709/kg。2018 年 9 月の国内電気銅建値のスタートは、以降化のない限りでは、750 円の予想です。

◎ LME相場推移及び国内電気銅建値推移



◎ 平成30年9月の国内亜鉛建値は下記の通りです。

- 9月 3日 ~ 325 円/kg
- 9月 10日 ~ 316 円/kg
- 9月 18日 ~ 298 円/kg
- 9月 25日 ~ 343 円/kg

平均320.50円/kg

平成30年9月は上記の通りで前月比 8.00 円/kg の値下げとなりました。

これはLME亜鉛相場の下落で引き下げられたもの

◎ その他の建値

電気鉛	9月	292.00 円/kg	(前月比+ 1.70 円/kg)
電気錫 (相対)	9月	3,550.00 円/kg	(前月比- 40.00 円/kg)
ニッケル (溶解用)	9月中価格	1,500.00 円/kg	～ 1,550.00 円/kg
銀	8月平均	54,840.00 円/kg	(前月比- 2,950.00 円/kg)
	9月27日	53,620.00 円/kg	
金	8月平均	4,318.00 円/g	(前月比- 143.71 円/g)
	9月27日	4,366.00 円/g	

◎ 伸銅品関係

平成30年8月の伸銅品・品種別生産速報 (全国ベース)

		7月度実績	8月度速報	前月比	前年8月度実績	前年同月比
銅	板	1,611	1,230	-23.6%	1,120	9.8%
	条	23,025	19,438	-15.6%	20,016	-2.9%
	管	9,422	7,159	-24.0%	7,096	0.9%
	棒	2,336	2,173	-7.0%	2,121	2.5%
	線	264	256	-3.0%	243	5.3%
黄銅	板	686	505	-26.4%	522	-3.3%
	条	9,356	7,648	-18.3%	7,806	-2.0%
	管	508	471	-7.3%	576	-18.2%
	棒	15,370	14,387	-6.4%	14,313	0.5%
	線	2,827	2,306	-18.4%	2,269	1.6%
青銅	板	2,866	2,502	-12.7%	2,639	-5.2%
	条					
	棒	259	225	-13.1%	284	-20.8%
	線	61	68	11.5%	66	3.0%
洋白・その他	板	497	466	-6.2%	423	10.2%
	条					
	棒	43	44	2.3%	33	33.3%
	線	465	335	-28.0%	454	-26.2%
合計		69,596	59,213	-14.9%	59,981	-1.3%

8月の伸銅品生産速報は、59,213トンで前月比マイナス10,383トン、前年同月比-1.3%となり、前年同月比が3ヶ月連続でマイナスとなりました。

電 線 関 係

電線工業会がまとめた銅電線主要7部門別出荷数量の6月分実績及び7月分推定によれば、6月分実績は、7部門中で出荷ウェイトの高い建設電販、電力、輸出の3部門が下支えし、総計は5万9千45tで前年同月比2.4%増となり、3ヵ月連続で伸長した。ここに来て建販需要が同様に3ヵ月間増加するなど、やや動きだしたのが原動力となった。

また、7月分推定は建設電販が上向くなど通信と自動車を除き増加する見込みであり、総計は5万9千800tで同4.7%増加した。

一方、6月分の部門別出荷量をみると、プラスグループは3部門となり、電力は一部の張替え需要が発生した上、前年実績が低いため4ヵ月振りに増加に転じ、同4.5%伸長。今後のV字回復に期待したい。建設電販は、東京五輪や再開発案件などが幾分動き出し同5.0%増え、下期から本格需要に入る見通し。輸出は、電力案件等が牽引し4割強増加した。

マイナスグループは通信、電気機械、自動車、その他内需の4部門になった。

通信は光化が響き、CCPなどが低調であり、同10.9%減と8ヵ月連続で下降した。電気機械は、車載向けが伸び悩み、同2.5%減と再び前年同月を割り込んだ。自動車は、自動車の生産台数が前年を下回ったため、同3.0%減と26ヵ月振りに低下し、一服状態となった。その他内需は、総じて不調なことから6ヵ月連続で前年を下回り、同2.1%減少した。

2018年6月分(実績)・2018年7月分(推定)主要部門別出荷

部門	数 量						金 額		
	6月実績 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	7月推定 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	6月実績 (百万円)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)
通 信	784	▼ 5.1	▼ 10.9	800	2.0	▼ 5.8	1,333	(▼2.8)	▼ 0.6
電 力	(1,310) 4,326	(▼36.0) 5.0	(▼21.0) 4.5	(1,000) 4,500	(▼23.7) 4.0	(▼40.5) 11.6	902 5,046	(▼32.4) 5.0	(▼10.3) 14.5
電 気 機 械	(402) 12,843	(52.9) 10.5	(▼9.9) ▼ 2.5	13,200	2.8	5.5	389 18,309	(66.2) 10.6	(▼5.8) 5.3
自 動 車	(96) 6,844	(20.0) 9.1	(▼ 2.0) ▼ 3.0	6,900	0.8	▼ 0.3	388 31,421	(16.9) 9.1	(3.7) 1.1
建 設・電 販	(39) 27,687	(39.3) 9.0	(56.0) 5.0	28,200	1.9	3.5	50 32,380	(78.6) 6.5	(177.8) 125.0
そ の 他 内 需	(48) 4,485	(11.6) 11.0	- ▼ 2.1	(600) 4,400	(2.6) ▼ 1.9	(▼10.3) 6.2	53 7,183	(23.3) 8.9	(178.9) 7.5
内 需 計	(1,895) 56,969	(▼23.4) 9.0	(▼12.3) 1.4	(1,600) 58,000	(▼15.6) 1.8	(▼31.9) 4.2	1,782 95,672	(▼9.5) 8.1	(▼2.5) 6.7
輸 出	(288) 2,076	(1052.0) ▼ 23.3	(1820.0) 41.3	(300) 1,800	(4.2) ▼ 13.3	- 25.9	142 6,742	(517.4) ▼ 40.3	(1190.9) 29.2
合 計	(2,183) 59,045	(▼12.7) 7.4	(0.4) 2.4	(1,900) 59,800	(▼13.0) 1.3	(▼19.2) 4.7	1,924 102,415	(▼3.5) 2.6	(4.6) 7.6
心線販売	(1,007) 30,790	(▼15.3) 10.6	(▼13.0) ▼ 0.7	(1,300) 30,700	(29.1) ▼ 0.3	(36.6) 1.9	282 23,878	(▼15.3) 11.7	(▼4.4) 16.6

(注) ()内はアルミ線を示し外数。ただし推定欄のアルミ線は電力、輸出部門以外は

「その他内需部門」に一括計上。▼はマイナス。

金額は四捨五入の為計が合わない場合がある。

2018年6月分品種別出荷 単位:銅量:トン アルミ量:トン 金額:百万円

品 種	数量	対前月比 (%)	対前年 同月比	金額	対前月比 (%)	対前年 同月比	
裸線	3,562	5.8	▼ 11.8	3,440	14.0	▼ 3.5	
巻線	11,762	11.1	▼ 3.3	12,917	11.1	7.0	
機器用電線	3,620	2.2	2.1	10,910	5.2	7.0	
通信用電線・ケーブル	1,412	▼ 2.1	▼ 6.2	3,188	2.8	2.8	
電力用電線・ケーブル	21,506	6.3	10.6	23,521	▼ 10.3	25.1	
被覆線	11,610	9.6	3.5	15,686	5.9	7.6	
輸送用電線	5,573	6.2	▼ 3.3	32,753	6.8	0.6	
銅電線計	59,045	7.4	2.4	102,415	2.6	7.9	
EM電線・ ケーブル	通信用電線・ケーブル	69	23.2	▼ 4.2	228	21.9	▼ 4.2
	電力用電線・ケーブル、被覆線	2,470	9.5	2.0	2,956	9.1	12.7
計	2,547	9.9	1.9	3,226	10.4	11.6	
アルミ電線計	2,183	▼ 12.7	0.4	1,924	▼ 3.5	4.6	
光製品	3,957,270	▼ 3.9	▼ 2.9	23,279	10.4	▼ 1.8	
うち、光ファイバーケーブルコード	-	-	-	3,886	8.0	▼ 22.7	

(注) 1. EM電線・ケーブルはJCS規格17品種が対象であり、機器用、消防用等のノンハロタイプは含まれない

(注) 2. 四捨五入の為計が合わない場合がある。

(注) 3. 光製品の数量はkmc

(注) 4. ▼はマイナス

◎ アルミニウム関係

- 国際アルミニウム地金相場の第1週は、米中貿易摩擦が市場センチメントを悪化させる中、新興国通貨安・ドル高の影響もあり非鉄相場は、総じて軟調に推移。トランプ米政権が中国からの2,000億ドル相当の輸入品に追加関税を課す第3弾の制裁措置について、一般からの意見募集を締め切った上で近く発動の可否を決めるとのことで米国株価も下落する中、アルミ相場も軟調に推移。第2週、Rusa1社の減産実施報道を受けて堅調に推移。米中通商問題・ドル高による影響はあるものの\$2,050を挟んでのレンジ取引となる。市場関係者によるとRusa1制裁問題が不透明で、ポジションを一方に傾げにくい状況で本問題の行方がはっきりするまでは、レンジ取引が続くと思われる。第3週は、引き続き米中通商問題の悪化懸念、Rusa1問題により市場は揉み合いの展開。関税を巡る米中間の対立は激化している。米国による追加関税第三弾は市場の予想よりも柔軟な内容であった。第4週、8月の中国アルミナ輸出量は前年比320%と大幅な伸びとなる。OPEC加盟・非加盟国による会合での増産見送り決定を受け、供給逼迫懸念から原油先物価格が上昇。FOMCでの利上げ期待によるドル高の影響もあり、米中貿易摩擦悪化の影響のもと、当面は\$2,000～\$2,100のレンジ内での展開が続くと予想。

○ 対日オファー及び国内価格

- ・対日オファー（CIF） 2018年9月積 2,187.00～2,199.00 ドル/トン
- ・輸入採算価格 2018年9月積 262.80～264.30 円/kg
- ・NSP 2018年7月 295.3 円/kg
- ・NSP（メーカー対応価格） 2018年10月～12月 310.00 円/kg

○ IAI統計アルミニウム新地金生産高（単位=千トン）

	'18年7月	'18年8月	'17年8月
月生産	*2,361.0	2,365.0	2,326.0
平均日産	*76.2	76.3	75.0

(*＝訂正有り) 中国は対象外にしております。

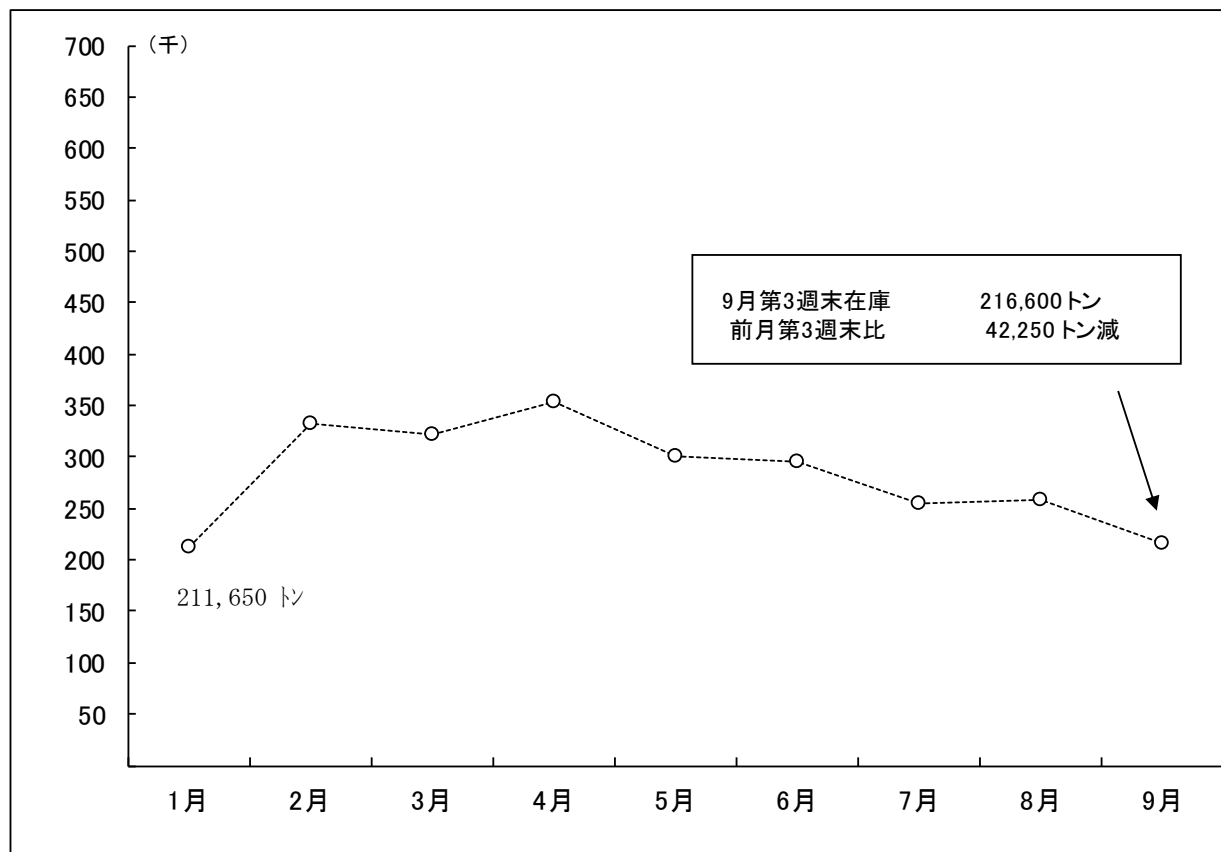
○ アルミインゴット港湾在庫

(単位：トン)

	2018年5月	2018年6月	増減	2017年6月	増減
横浜	144,000	151,700	+7,700	122,500	+29,200
名古屋	125,200	140,200	+15,000	122,700	+17,500
大阪	15,000	15,000	±0	15,000	±0
合計	284,200	306,900	+22,700	260,200	+46,700

上記アルミインゴット港湾在庫に変更致しました。(2015年1月分からの変更です)

◎ LME銅在庫 (各月第3週末参考)



◎ COMEX在庫 (第3週末)

・ 30年9月21日現在 177,394 S T 前月比 18,958 S T 減

◎ 国内山元電気銅在庫

・ 30年7月末 97,643 トン 前月比 878 トン増

◎ 伸銅品生産実績

・ 30年7月確報 69,596 トン
 ・ 30年8月速報 59,213 トン 前月比 83.9 %

◎ 電線出荷実績

・ 30年8月速報 54,800 トン 前月比 91.6 %

◎ 軽圧品生産実績

・ 30年 8月	板 類	86,222 トン	
	押 出 類	58,856 トン	
		145,078 トン	前月比 83.1 %

以上簡単ですが銅概況、他のご報告申し上げます。